

0歳から18歳までが利用できる

新児童館 ラブラブにおいでよ

8月23日(日)

JR三原駅前のペアシティ三原西館2階に
新児童館「ラブラブ」がオープン!

前の児童館の
約4倍の広さ!



児童館が8月23日(日)、JR三原駅前のペアシティ三原西館2階に移転し、オープンします。「新児童館ティーンズ検討委員会」のメンバーと一緒に紹介します。

みんなで 行こうよ!



「新児童館ティーンズ検討委員会」とは

旧児童館で少なかった中高生(ティーンズ)の利用を増やすため立ち上がったグループ。中高生のメンバーが、新児童館の機能や運営方法などについて考えてきました。

最初に事務室にある
「来館者名簿」に名前
などを書いてね

事務室

子どもたちが安全に遊べるように先生たちが見守ります。おもちゃの貸し出しもします。

談話ホール

座っておしゃべりできるスペース。待ち合わせ場所にも最適。

わははは~



図子育て支援課 ☎0848・67・6045
児童館 ☎☎兼用0848・67・1123

開館時間 10時~19時

休館日 毎週火曜日、年末年始

対象 0歳~18歳の子と保護者

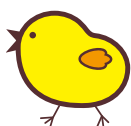
料金 無料

※事務室で名前などを記入するだけで利用できます。乳幼児は保護者が同伴してください。

駐車場 クラフトパーキング(キオラスクエア内)

※2時間までは無料です。手続きが必要のため、必ず駐車券を持ってくるください。

利用案内



みんなでワクワクする事にチャレンジしよう

「じどうかんぎっずスタッフ」がいます

小学生のグループ「じどうかんぎっずスタッフ」は、みんなで楽しめる遊びを考えたり、お楽しみ会を企画したりしています。30秒間でペットボトルのキャップを何個積み上げることができるかを競う「じどうかんギネス キャップタワーチャレンジ」は代表作。延べ171人が挑戦し、盛り上がりしました。これからもワクワクする遊びを考えます。

新しい児童館で待ってるよ!





ラブラブルーム(遊戯室)

ボルダリングや図書のコーナー、学習室などを設けました。

●ボルダリングコーナー(写真は表紙)

道具を使わずに体一つで壁をよじ登る「ボルダリング」が体験できます。三原の海をイメージし、貝やタコなどのホールド(取っ手)を設置しました。

●学習室



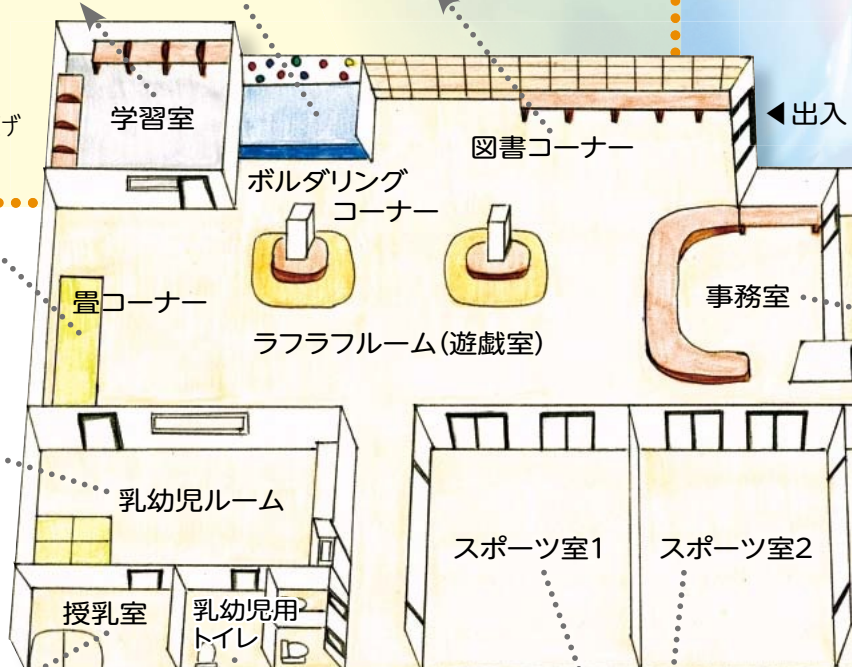
仕切りが付いた机で集中して勉強できます。机にはそれぞれ、電源コンセントも完備しています。グループで話し合いや勉強ができるスペースもあります。

●畳コーナー (くつろぎスペース)

足を伸ばしてゆったりとくつろげるスペース。

●図書コーナー

マンガや絵本、小説、育児に関する雑誌などを用意。子どもから保護者までが楽しめるコーナーです。



イラストは正田 美智子さん
(三原高校3年生)作

※図の右側が
JR三原駅前側。

乳幼児スペース

●乳幼児ルーム

主に赤ちゃんや就学前の子どもが安心して遊べる部屋。



●授乳室

授乳スペースやおむつ替えコーナーがあります。



●乳幼児用トイレ



スポーツ室

大型の鏡でダンスの練習ができます。Bluetoothに対応したスピーカーが使えます。



※2～4ページは新児童館ティーンズ検討委員会のメンバーと一緒に作りました。

新児童館ティーンズ検討委員会の意見も反映

———これまでできなかったことができるようになりました———



- ①開館時間が19時までに延びたため、放課後利用できる
- ②全ての部屋で無料Wi-Fi^{ワイファイ}が利用できる
- ③学習室で勉強に集中できる
- ④スポーツ室でダンスや演劇の練習ができる
- ⑤乳幼児ルームで赤ちゃんと保護者がゆったりと過ごせる
- ⑥談話ホールなどで友達とゆっくりおしゃべりができる

より利用しやすく
なりました



愛称には
こんな意味を
込めました



ロゴは笑顔の口が
モチーフ。

一番上は乳幼児～
小学生、真ん中は中
高生、一番下は保護
者をイメージしてい
ます。



新児童館ティーンズ検討委員会
のメンバーが愛称を考えました。

ラフラフとは「笑う(laughラフ)」と「気軽な」を意味するラフを
合わせた造語。

「笑顔が集まり、気軽に行くこ
とができる場所になるように」と
いう思いを込めました。

子どもたちと一緒につくる児童館

児童館の運営には、これからも子どもたちの意見を取り入れていきます。その1つとして、三原高校の2年生が授業の中で「理想の児童館」について考えてくれています。生徒たちのアイデアが未来の児童館を作っていきます。



みんなでより魅力ある場所に

新児童館「ラフラフ」のコンセプトは、「ぶらり立ち寄り 笑顔でワクワク」。新児童館ティーンズ検討委員会のメンバーをはじめ、さまざまな人たちの思いを形にして生まれた場所です。気軽に立ち寄り笑顔になれる場所として多くの人に使ってもらい、皆さんと一緒に育てていきたいと考えています。



門 康樹 館長



▲三原高校の2年生が児童館について考えています